

新会長に谷口伸二さん 2014年度・新体制スタート

～出席率 75% (19名)～大町労山総会，成功裏に終わる～

3月25日に開かれた大町労山第48回総会には、会員25名中19名が参加（出席75%）し、1年間の活動を総括すると共に、次年度の取り組みについて活発に論議しました。

総会では、年間約100回、のべ250人に及ぶ山行の活動報告を始め、1年間の活動報告と決算報告、次年度に向けての例会・役員会の改革案や役員体制とこれに伴う規約の改正案、予算案等、積極的な活動方針案が提起されました。

主な改正点は、従来月2回開かれていた例会を拡大役員会(2火)と例会(4火)に分け、役員会で中・長期の見通しに立った活動計画を立てて例会で全体のものにして行くと言う点を始め、機関紙の充実を図り定期的に発行する取り組みや教育訓練山行の実施、例会を面白くするための工夫等、積極的な活動方針が満場一致で承認されました。

総会では長期にわたって労山の顔として会長を務めて来られた小林源一会長に代って谷口伸二さんが新会長に選出され、これに伴って副会長の複数化等、一部規約の改正案が、決算、予算案と共に承認され、名実ともに新たな体制の活動がスタートしました。

中でも活発に議論が交わされたのは『面白い例会をどうつくるか』と言う点で、スライドショーを取り入れる等の工夫をする一方、新会員加入の取り組みを進めたり、山行報告を盛り込んだ機関紙を定期的に発行することで、個々の山行をみんなのものにして会員の共通認識にしようなどのことが、活発に議論されました。

(写真は角田山頂上 4/6)

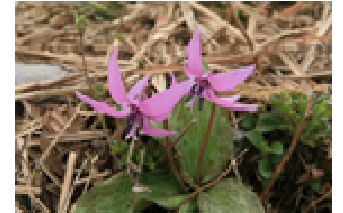


【第1回拡大役員会開催】出席者5名(敬称略) 谷口・小林・勝野・桑原・森田

4月8日(火) 3月25日の総会決定を受けて、初の試みとなる第1回役員会が行われ4月22日の例会に向けて、掘り下げた議論が交わされました。

1; 山行報告

役員会では個々の山行報告は行わないことになっていますが、4月6日の角田山山行には入会を希望されている方の参加があり、その後、ご本人から前向きに考えているとの意思表示があったことが報告されました。



2; 山行計画

少なくとも2ヶ月先の山行計画を提起できるようにとの立場から、当面の山行計画の候補を決めました。

★4月20日(日) : 4月会山行 日向山(山梨) ※締め切り4月16日(水)

7:00 道の駅松川集合 歩行3.5~4時間 標高差550m

★5月3日(土)~6日(火) 岳沢県有志合宿・担当, 勝野

★5月11日(日) 県連交流・鍬ノ峰 (下見:5月1~2日, または7~9日の間)

地元の山の会として何らかの協力要請があるものと思われます。今のところこれ以上のことは何もわからない状況ですが、当日の参加や要員の要請等があれば可能な限りご協力下さい。

★5月18日(日) 恒例の鍬ノ峰公開(募集山行)は昨年と同じ要領で行います。

締め切りを5月10日とし、案内チラシも昨年のを流用

★6月1日(日) 6月山行 米山(新潟県)

★6月8日(日) 針ノ木岳・清掃登山, 併せて県連50周年交流山行とします。

前日に登って避難小屋で一泊。翌日の参加者と合流して下山~という案もあります。

★8月後半(金~日) 夏合宿 新穂高~双六岳~槍ヶ岳~新穂高 昨年の案を再計画

★その他, 以下のような個人的な山行予定が報告されています。

4月9日(水) 白馬乗鞍岳 横田

4月19日(土) 針ノ木岳

4月28日(月)~29日(火) 小蓮華尾根~白馬岳(または白馬大池)・鈴木

★山行希望として上がっている山

鍋倉山・火打山・瑞牆山・岩殿山(中止決定が早すぎたので再計画をの声)

3 ; 訓練山行について

★雪上訓練山行について 4月27日(日) 針ノ木岳にて
雪上訓練を小日向山で行い、訓練後、希望者が幕営して翌28日～29日に小蓮華尾根～白馬岳登頂を目指すという案もあります

4 ; 会員のアドレス集約について

会員の動向を掴み、連絡を密にして素早く情報をやり取りするために、PC および携帯メールのアドレス帳をつくるのが急務になっていますが進展がなく、現在、PC、携帯のいずれもアドレス不明の人には直接電話するしか急ぎの連絡ができません。アドレス帳の作成にご協力下さい。

5 ; 機関紙について

機関紙は月1回の発行で、当面の名称は『大町労山だより』になりました。例会や役員会の討議内容をお知らせするニュース性と共に、山行記録や意見、提言、会員の動静などをお知らせする内容を目指します。一方、文集形式の『ごんぞ』は年1回、忘年会には届けられるよう11月末の発行を目指さすことになりました。機関紙に山行報告が載るようになれば、『ごんぞ』の原稿も充実するものと期待されますので、機関紙への投稿にご協力下さい。

新会長のことば

知識・経験・人柄、すべて前会長には及びませんが次期総会まで皆さんの協力で努めたいと思います。多くの仲間と楽しい山行をしましょう！

前会長のことば

あまりにも長すぎた会長職！！何もできずに長い間、みなさんのご協力のお蔭で続けてこれました。これからは新会長の下、いっぱい山に登りましょう。有難うございました。

ニューフェイス登場 ～臼井あやさん～

『山に呼ばれて京都から来ました！
まだまだ未熟ですが、よろしくお願ひします。』



山行報告 八方尾根

桑原 巖

- 期日 3月9日 ●参加：鈴木・小山・尾形・桑原
- 登高手段 アイゼン：桑原 スキー：鈴木・小山 尾形

山行当日の天候は午後には崩れる予報であったが、出発時には青空も見えていたので予定通り7時半過ぎ八方尾根ロープウェイに乗り込んだ。搭乗券の購入時に上部のリフトは風が強くて運行できるかどうか予測出来ないといわれたが、上部はそれほど風ではなくリフトは平常通り運行していたので、リフトを2つ乗り継いで八方池山荘に到着。ここで鈴木、小山はスキー、尾形、桑原はアイゼン装着。登高開始である。

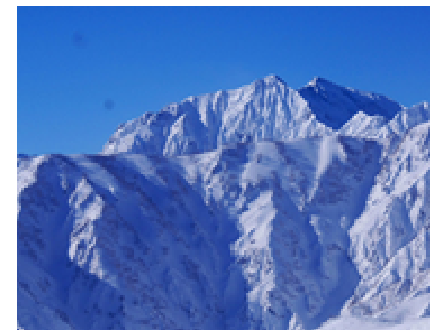
冬の八方尾根は10何年かぶりだ。ここから先の登高者が結構多くアイゼン、スキー、それにボード担ぐ若者たちもあり、なかなか賑やかだ。先行者が多くトレースがしっかりしているので歩きやすい。しかし歩き始めた頃から風が強くなりだし、ガスが湧き出して視界が悪くなってきた。

第二ケルンから憩ケルンにかかるころにはほとんど視界がきかなくなり、時折猛烈な風が吹き付ける。憩ケルンでケルンの陰で風をよけて少し休憩。第三ケルン、八方池目指して歩き出したが、相変わらず視界が悪く、かぜも強い。

第三ケルンに到着、9時20分。ケルンの陰でしばらく休憩して様子を見たが、ほとんどホワイトアウトの状態なので登高は中止して下山開始。

鈴木、小山、尾形の3人はスキーで滑降、桑原はアイゼンで下降。スキー組の姿はあつという間に視界から消えてしまった。途中八方池山荘で合流、この先はウサギ平のロープウェイ終点のレストランで待ち合わせることにしてスキー組は滑降で下り、桑原はアルペンリフトまではアイゼンで下り、アルペンリフトはリフトに乗った。

ウサギ平のレストランの広い休憩室はスキーヤー、ボーダーでごった返していた。その中から三人の姿を見つけ出しほっとした。しばらく昼食歓談し、三人はスキー滑降、桑原はゴンドラで下山、山行は終わった。せめて丸山ケルンくらいまではと思っていたが、悪天に阻まれ少し心残りの山行であった。



八方尾根からの五竜・鹿島槍ヶ岳



9:40 発。国道を横切って桜尾根コース登山口へ。ミスミソウやカタクリで知られる角田山は、3月末から4月頭の土・日が人気のピークで、大勢の登山客で賑わっており、前に行く大きな集団との間を詰めないようにゆっくり登る。

角田岬に着くまでの道中、何度も激しい雨に見舞われ、重苦しい雲の下、一時は雨具での登山を覚悟したが、登り始めの頃は晴れ間も見え、30分も歩くと熱くなって着込んだものを脱いで身軽になる人が続出。

はじめは急登であるが、5分ほど歩くと早くもミスミソウが現れる。ミスミソウはやや盛りを過ぎていたが、代わりにカタクリの大群落ドンピシャのタイミングで、昨年見た雪の中で寒そうに縮こまっていたのとはまったく違うその群の大きさに驚かされる。またその大群落が山頂のすぐ下まで続いているのも予想を覆すものだった。登っても登ってもカタクリ、どこまでもカタクリなのである。

11:30に灯台、浦浜、五ヶ峠の3コースを合わせて木道を歩くこと5分足らずで標高481.7mの山頂標識着。その頃から冷たい風が吹き始める。

山頂は広々としており、大勢のハイカーで賑わっていてもなおゆったり座われる場所が随所にあり、銅像のある一画に陣取って思い思いに昼食を摂る。その間に気温が下がり、北からの風が強くなって来たので、集合写真もそこそこに12:25下山開始。

その間に大集団を1つ追い越し、目の前の150mのピークに下る途中で更に大きな集団に道を譲ってもらって前に出ると、前方にいる筈の宮島さんが何故か後ろにいるのに笑ってしまった。大集団に阻まれて前に出られなかったらしい。

鞍部まで下って150mの小ピークに登り返すと、そこから灯台のある丘までは擬木の階段の連続となり、左右の眼下の岩場に押し寄せては碎ける波頭を見下ろし、或いは北東に延びる海岸線の波模様を眺めながら下って13:25灯台着。遥か沖合の佐渡の写真を撮って13:29波打ち際、海拔0mへの下山となる。



角田山は佐渡弥彦米山国定公園の一角をなす。

角田山へは散策組2名を含め13人で出かけた。松川道の駅に5時半に集合し3台の車に分乗し糸魚川ICへ。北陸自動車道巻潟東IC降車。途中強雨になったり天気不安定で少々不安を感じる。

巻潟東ICより角田浜海水浴場駐車場へ。駐車場には大型バスやマイクロバス等多くのバスツアー客が花の角田山めざし来ている。

今回は当初下山コースに予定されていた桜尾根コースを登ることになる。登山道脇は雪割草を始めカタクリや多くの花々が咲き目を奪われる。

約2時間ほどで頂上に到着。頂上は大変広い広場となっており避難小屋もある。頂上広場は多くの登山客がおり、輪になって昼食を楽しんでいた。またテントも何張かあり風よけなのかテント内で楽しんでいた。

下山は灯台コースを角田灯台に向け下山。少し下ると三望小屋があり煙が出ていたので中で登山者が楽しんでいるのであろう。登山道脇にはカタクリの群生がみられ花の百名山といわれるわけである。

下山道は一部岩稜帯もあるがつばきが咲いて遠くに海も見え、一挙に海を背に下灯台に向けての下りは気持ちがいい。

角田灯台横から階段を下ると越後七浦の海岸に到着。海拔0mに降りてから駐車場に向かった。



八方池山荘 ～ 唐松岳 ～(スキー滑走)～ 二股

平成26年4月12日(土) 横田 竜三

天気予報ではいい天気だったもので、急遽唐松岳山行の計画をした。

HPで色々見ていると、唐松沢へ滑走している事が多く、二股へ出ることがわかった。平成19年に唐松沢の最終堰堤(第2堰堤)の鋼製スリットを仕事で再設置したので、そこに出てくることは確認できたが、「結構急な沢じゃなかったかな?」と数あるHPを参考にして唐松Dルンゼ滑走を計画した。

針ノ木岳への大町アルペンルートが開通してないので(本当は針ノ木に行きたかったが)しかたなく、天気が快晴のため唐松岳にした。(いつもなら4/10には扇沢までは開通しているのに、全線開通にしたのか?)

当日ゴンドラ乗り場は混雑しており、8時開始で、グラートクワッドのリフトが9時だと思っていたが、8時半には動いており、8:40には八方山荘に到着した。シールを付けて丁度9時に山荘を出発、無風で八方池まで約40分快適であった。丸山を越えた当りから、風が出てきて雪がカチカチの状態であり、アイゼンに履き替えた。唐松山頂の予定時間が12:00と見積もっていたが、1時間ほど多くかかってしまった。結構人は多く、1/4は滑走目的の人であった。山頂より北側に少しくライムダウンして、13:30に滑走開始。雪は柔らかく

快適であったが、途中モナカの一步手前くらいのクラストした雪に板が引っかかり、転倒した。Dルンゼはさすがに快適であったが、唐松沢の出合あたりから斜度が緩く、雪もモナカっぽく、慎重に滑るので余り楽しくはなかった。しかし南滝までは山スキーであった。

南滝から下は苦痛で面白くなく、滑走の半分は歩き+渡渉など、6回ほど板の脱着を繰り返した。中電道路ではところどころに雪が切れておりTLTでは脱着がめんどくさい。事前の下調べが大切です。

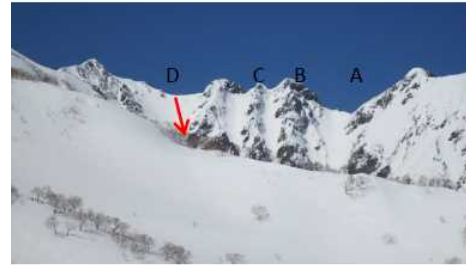
二股にはちょうど16:00に到着、そこから徒歩30分かけて駐車場に到着した。

全体工程の1/4だけが滑走なので、ルートとしてはどうなのかな?と思う。やはり針ノ木みたいに、駐車場に徒歩3分くらいじゃないともう一度いきたいな、滑りごたえあったとは思わない。腕に自信のあるスキーヤーが多いのかな。もう十分です。

<今回の反省点>

- ・日頃の怠けのせいで登りがしんどかった。
- ・途中、よく雪を確認する。板が取られる事があった。
- ・事前にHPを参考しておいてよかった運動靴持参で歩きが快適であった。・事前の下調べが大切です。

次回例会は、4月22日(火)
19:30～大町労働会館です。



丸山付近からのD沢



小屋から唐松岳



ドロップポイント



ドロップポイント真下



唐松沢出合付近



南滝通過直後



デブリ後を滑走



鋼製スリット、H鋼の蓋が役に立った

<機関紙担当からのお願い>

山行記録をはじめとする原稿をお願いします。各山行のCLの方は、その山行の記録を自身でまとめるか、参加者のどなたかにまとめて頂いて記録を残すようにしましょう。雑感、提言、つぶやき、或いは登山に関係ない話題でも構いません。また、ヒヤリハットや日頃の所感会員相互の理解・親睦を深める上からもよろしく願います(森田)